

銀座西並木通り会は、2月26日に三笠会館で、銀座西並木通り・街づくり懇話会「ポートランドから学んだこと」を開催した。昨年10月に同有志を中心に視察した米國オレゴン州ポートランドの報告会で、登壇者からはポートランドの様々な取り組みを紹介し、今後の銀座の街づくりに活かす提言がなされた。

谷善樹銀座西並木通り会会長は、「街づくりの中で、構造的な問題からうまくいかない面もある。過去に石畳の整備を行ったが、「街づくりがメンテナンスに終始してしまふ」との課題を抱えていた中で、訪れたポートランドが高速道路を廃止して歩ける街としたことに「理念、エネルギー、組織力を持って乗り越えたことを目の当たりにした。取

レポート

銀座西並木通り会・街づくり懇話会「ポートランドから学んだこと」

多くの成功例 銀座の街づくりに

り組めばその先に可能性がある」と語り挨拶に代えた。

報告会ではまず谷廣司郎 同会事務局長が「街を歩くことの楽しさを感じ、街と人のつながりに感銘を受けた。また、すべての店が開放的で街の建物が、開いている」と表現した。これを踏ま

のでは」とまとめた。

堀田峰明之氏は「強い郷土愛と自治精神」と題して、「空き店舗を借り上げて貸し出す仕組みがあり、それもポートランドでデザインや製作されていることが条件になる。このように地元ベンチャーやクリエイターを育てる仕組みがある」と

りを挙げた。

若月一之氏は、ポートランドが豊富な水源を活かして安い電力を供給できるところで、インテルなど大手半導体企業を誘致して人口集積を図り、これを加速させた街づくり手法や、地元生産者の流通を後押しし、人口流入増を成功させたことを

「街を動かす仕組み」として、LRTの導入や駐車場建設を制限した例を紹介。事実上車の乗り入れを規制するものだが、商業を魅力的にすることに逆に多くの人が訪れる結果となったことを紹介した。また、空き店舗にチェーンではなく、地元

の店舗を出店させるPDCの取り組みを紹介した。PDCは賃料補助を行うこともあるという。また同地の後、ニューヨークを訪

えて銀座への提言として「道づくりにこそ街づくり」と、「地域や通りごとにテーマを持たせ、独自性を持つことが重要。ポートランドでは「人」が集う「広場」から生まれる賑わいがあるが、銀座に広場を作るのは難しい」としながらも「歩行者天国に新しい要素を加えることができる

コメント。また、ファーマーズマーケットでは「持続可能な地産地消は地元に対する愛情を感じた」と語った。90以上の各町内会で議論して街づくりを実行していくことを紹介した。銀座への提言は、議論する場づくりや財源を持つこと、街づくりにフルコミットできるプロの招聘、特区づく

紹介した。郊外の消費地との違いがあるとしながらも、「銀座はイベントや広報活動をもつ一段商業性を高めることが必要」と述べた。また「街とビルオーナーが同じ方向性に向けるように」とつけ加えた。

最後は銀座街づくり研究会事務局の竹沢えり子氏が登壇した。竹沢氏は

れ、BIDによる特区作りで地域の活性化に貢献したマンハッタンの事例を紹介した。銀座へは、「銀ブラ」を楽しめる公共空間などの仕組みづくりが必要。世界がそういうトレンドにあることやネットの時代だからこそ、銀ブラの意味を今一度見つめ直すべき」とアピールした。